

令和6年度 第2回政策推進会議報告

日 時 5月9日 9時30分～11時30分

場 所 4-1会議室

出席者 19人

市長より一言。

重点課題事項の公表については、就任してから今回が2回目の発表となる。昨年については私自身が市の中の状況を把握するのに時間がかかっていたが、今回は1年間かけて自分なりにも課題意識を持った点について整理し、各局長としっかりとやりとりしたうえで重点課題の設定ができたと感じている。

また、今朝、駅前で市政報告という形で街頭演説を行ったが、チラシ一枚手に取ってもらうのも大変であり、誰にも守られていない状況で、いつでも自分で答えられるよう準備をしながら報告を行うという場に身を投げ出すことで自分自身も鍛えられると考えている。この街頭演説の際、駅前を歩いている市民の皆さんに対して自分が何をしてきたのかということを説明するにはやはり公約が原点であることから、その公約を実現しない、公約を変えるということの責任の重さを感じているが、公約だけに満足せず、市民の皆さんに納得していただけるよう、状況に応じて柔軟に対応する、公約のさらに先を開拓していく、こういった姿勢で仕事をしたいと考えている。

今回の重点課題事項についても、市役所の幹部職員として公表する以上、ある種の公約であると考えており、各局長におかれても、この年度初めに約束した重点事項をしっかりと実現できるよう、目標として据えていただき、場合によっては状況に応じて柔軟に対応していく、こういった姿勢でそれぞれ頑張っていただきたい。ただ、それぞれの局単独で実現できるものは決して多くはないため、市役所一丸となって取組を進められたらと考えているため、よろしくお願いしたい。

1 令和6年度重点課題事項の公表について

危機管理安全局長から順に資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(吹野副市長) アンケートなどからもわかるように、尼崎のイメージがよくなったという市民が増えている。この流れをより加速して強固なものにしていきたいと考えている。

私が担当している福祉、保健、子ども子育て、教育のような分野については、なかなか目に見えて何かが劇的に変わった、というようなことはないが、市民一人ひとりに日々向き合っており、こうした中で市民の方の満足度、信頼度が高まるのが、結果として市に対する、市政に対するイメージの向上につながるものと考えているため、地味で地道なことではあるが引き続きよろしくお願いしたい。

また、総合政策局や総務局についても、職員一人ひとりの仕事に対する満足度が向上することによって、市の体制そのものが良くなり、ひいては市民対応にもつながるものであると感じている。お願い事ばかりで申し訳ないが、こちらも引き続きよろしくお願いしたい。

- ・(森山副市長) 先ほど市長からもあったように、この重点課題項目を守るだけでなく、状況に応じて柔軟に対応していく、新しい項目を付け加えるなど、そういう気持ちで進めていきたいと考えている。また、発表の中でも各局間で協力、連携が必要な課題があったかと思うが、他の局に対して、自局はこう協力できるのではと感じた部分も多くあったかと思うので、各局積極的にお節介を焼く位の姿勢で連携を進めていただきたい。

また、吹野副市長とも同様に、ようやく、成長と分配の好循環を作り出して持続的なまちづくりに向けてスタートできるタイミングに来ていると感じており、各局連携のもと、ソフトでもハードでも総合的に尼崎の魅力を向上させられる取組を進めていきたい。

- ・(市長) やはり三役も含め、各局、コミュニケーションが大事である。時にはそれぞれの考え方が違うこともあるかと思うが、幹部の皆さんはそういうところを乗り越えて、しっかりコミュニケーションをとりながら、結束を強め、政策の実現に向けて一丸となって今年度も頑張っていきたいと考えているため、よろしくお願いします。

2 尼崎市における学びの多様化学校設置基本方針（素案）に対する市民意見公募手続の結果及び同基本方針（案）の策定について

東教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(市長) 本件については、公約の一つでもあり、令和8年度に向けて準備をしているところである。機会均等を全国で実現するための国が引っ張る学校教育システムは非常に効率的ではあるが、今の社会の価値観にどう対応していくかとなると、学習指導要領の考え方も教員配置の考え方もシステムとしては対応できていないのが現状であり、そういう中で、学校現場の先生だけがそれぞれの個性への対応を求められ、個人の力量でしか対応できないという状況である。そういう意味でも私自身、学校システムの問題が大きく関係していると感じているが、このシステムは国が管理しており、自治体における裁量はあまりない中で、いかに多様化学校の設置に向けて進めていけるかが重要だと考えている。

多様化学校の最大のポイントはある種かなりの裁量を与えられるということである。中学校であれば1年生から3年生までで授業をどう進めていくのか、どういう教え方をするのか、どう教員を配置するのか、すべて学校の事情に応じて考えていく必要があるという意味では、我々も準備しなければならないことも多く、やったことがない取組であり、大変なことではあるが、一方でやりがいのある取組であり、自分たちでノウハウができてくると、多様化学校だけではなく、その他の学校への波及効果も期待できるのではないかと私自身は考えている。

非常に挑戦的で、場合によっては失敗する、うまくいかないなど、いろいろな批判をいただくこともあるかと思うが、恐れず、まずは新しいカリキュラム、授業のあり方を考えて、まずスタートさせたいと考えている。

教育委員会は大変苦勞する取組であるが、一生懸命考えていただきたいということに加え、財政部局、政策部局においても、手探りで進めていく取組であるということで、できるだけ寄り添いながら応援していただきたいと考えている。よろしく願いたい。

3 その他

- 総合政策局長から、令和 6 年度 10 万人わがまちクリーン運動の実施についてについて説明。
- 総合政策局長から、A-Lab Artist Gate ' 24 の開催について説明。
- 総合政策局長から、尼崎薪能について説明。
- 保健局長から、歯と口の健康フェスタ 2024 について説明。
- 経済環境局長から、尼崎城ゴーゴーゴー！キャンペーンの結果について説明。
- 公営企業管理者から、ゴールデンウィーク期間中の開催結果について説明。

以 上